

令和3年度 高野ロマルシェの取り組み

和歌山県立きのかわ支援学校 高等部

地域共育コーディネーターとの連携

和歌山県では平成20年から学校・家庭・地域の連携を実際に生きたものにし、それぞれが対等の立場で「共に育ち、育て合う関係」をつくる「きのくに共育コミュニティ」構想のもと、課題や願いを共有し、人々の出会いとつながりを大切にしながら学校の活力と地域の活力をともに高めていけるような実践的な学びの拠点を県全体に根付かせる取組を進めている。橋本市もこの施策のもと、地域の力を学校に、学校の学びを地域に広げる「共育コミュニティ」づくりを推進し、地域と学校の願いを調整する「共育コーディネーター」を配置し、学校と地域双方の活性化を図っている。



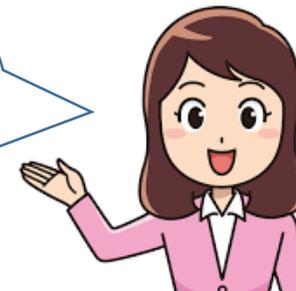
共育コーディネーター



共育コーディネーター

きのかわ支援学校高等部の作業製品って、
どんなものが、どのように
作られていますか？

毎週木曜日が作業の日となっ
ていて、農園芸や窯業、木工
など7つの班に分かれ、学年
を越えて協力し合いながら製
品作りをしています。



きのかわ支援学校 高等部

授業の様子を見学
させてください。

よろこんで！



きのかわ支援学校 高等部

本校作業班手作り製品

窯業班



家庭班



パソコン班



農園芸班



木工班



共育コーディネーター

これは素晴らしい！
ぜひ、地域の人に知って
いただきましょう！

私たちも地域の方々と
いっしょに活動をしたいと
思っていたんです！



きのかわ支援学校 高等部



基礎作業班

高野ロマルシェ誕生



紙工班

高野ロマルシェの取り組み ～第1回開催に向けて～

高野口地域共育コミュニティ連絡協議会との共催で年に2回開催とする。

①本校のねらい

- ・地域の方々との交流を深め、自分たちの取り組みを発信する力を培う。
- ・地域の仕組みや取り組みを知り、地場産業と地域特有の農業への興味・関心をひろげる。
- ・販売活動を体験する中で、必要な態度と知識を身につける。

②役割分担

【共育コミュニティ】

- ・地元農家から提供いただける野菜の収集
- ・健全育成会や、公民館などに協力要請
- ・販売用の物品調達

【本校】

- ・提供いただいた野菜の袋詰めや値札づけ
- ・自主製品の製作と販売準備
- ・ポスター・チラシの作成

【協同】

- ・地域へポスターやちらしなどの配布と協力依頼

高野口マルシェに向けての準備の様子

こうやぐち
高野口マルシェ

第一回・令和3年7月28日(水)
9:30~12:00 場所・高野口地区公民館

地域の農家さんの作った野菜や
支援学校高等部生徒が心をこめて作った商品がたくさんあります。

全て100円!



是非来てください!

きのかわ支援学校高等部
高野口地域共育コミュニティ連絡協議会



チラシ・ポスターを配っての宣伝活動



公民館をお借りしての野菜の袋詰め



パソコン班の生徒が作ったチラシ



第1回高野ロマルシェ開催

令和3年7月28日



当日は暑い一日でしたが、たくさんのお客様が来店され、大盛況でした。自分たちの商品だけでなく、地域の農家の皆様から預かった野菜なども大切に販売させていただきました。

対面での販売活動によって、接客やお金のやりとりや計算など、「緊張した」「楽しかった」「暑かったけど、頑張って挨拶をした」など、生徒の貴重な体験となりました。

7月29日毎日新聞に掲載

支援学校生 農産物など販売

高野口マルシェで地域交流



橋本市高野口町向島、県立きのかわ支援学校の高等部の生徒らが、自らつくった製品や地域の農家から提供された農産物を販売する催し「高野口マルシェ」

が28日、同町名倉の市高野口地区公民館で開かれた。写真。焼き物の皿や写真立て、牛乳パックを素材に紙すきしてつくった箸袋などが並べられ、交代で売り場に立った生徒が住民と交流を深めていた。

同校高等部と、住民らでつくる高野口地域共育コミュニティ連絡協議会が主催。同校高等部によると、生徒約

「まずは知っていただくこと」

共育コーディネーターの提案で、開催場所を高野口地区公民館前の玄関としました。

健全育成会や婦人会の皆さんに声をかけることで、公民館を利用する人を始め、口コミからたくさんのお客様が集まってくださり、商品に関する質問の他にも、暑い中がんばっている生徒たちに励ましのお声かけもいただきました。

作業の様子や取り組みを紹介するポスターも掲示し、学校での様子も見ていただきました。

60人は毎週木曜、木工や窯業、パソコン、紙工など七つの班に分かれ、作業学習をしている。催しは、地域の人たちに作ったものを販売する機会を設けることで、生徒らにやりがいを感じてもらおうと企画された。

高等部3年生で農園芸班の男子生徒は「地域の人たちに、オクラやミニトマトなどを買ってもらえてうれしい」と話していた。神崎良子校長は「コミュニケーション能力を高め、自分ができることを発見したり、地域のために自分ができることを考えたりするきっかけになれば」と期待していた。【藤原弘】

高野口マルシェの取り組み ～第2回開催に向けて～

共育コーディネーター及び高等部学部会での反省を経て、第2回は地元の特産物である富有柿が収穫される11月に開催することを決定。

○第2回開催日程

令和3年11月26日 金曜日 10時から11時

○場所

高野口地区公民館玄関前

○協力いただける農作物及び加工品

富有柿、あんぽ柿

さつまいも、キャベツ、白菜、大根、ゆず、すだち、

レモン、バターナッツかぼちゃ、こいも

駄菓子



○前回の反省から付け加えた点

- ・ 協力いただけるところへの挨拶(新規開拓)
- ・ 宣伝活動の工夫 (近所へチラシをポスティングなど)
- ・ 提供いただける商品の袋詰めを学校で実施(全員で行うため)
- ・ 販売体制の工夫と決定 (協力いただける商品の確認と提供者との打ち合わせ)
- ・ 販売価格は100円、200円、300円といったちょうどの金額に設定し、全て生徒が販売する (消費税は設定しない)

こうやぐち
高野口マルシェ

第二回・令和3年11月26日(金)
10:00~11:00 場所・高野口地区公民館

地域の農家さんの作ったさつまいもやみかん、あんぽ柿がお買い得!
支援学校高等部生徒が心をこめて作った商品がたくさんあります。



是非来てください!
さのかわ支援学校高等部
高野口地域共育コミュニティ連絡協議会

私たちが一生懸命
販売させていただきます

オカザキ紀芳庵



ご協力、
よろしくお願
い
します!



あんぽ柿加工組合



わかりやすい
ポップづくり



駄菓子は計算しや
すい金額のものを
自分たちで商品を
選定



商品陳列の
工夫



前回の反省から、『販売するものは自分たちで確認する』
ということをお大切に作業をしました。
共育コーディネーターの方々に指導をいただきながら、袋
詰めの方法や、値段設定など、ひとり一人がしっかりと考
えて作業をすることができました。

大きさ
チェック!



提供いただいた野菜や果物の袋詰め



見た目
チェック!

重さチェック!



詰め方
チェック!



第2回高野口マルシェ開催

令和3年11月26日



今回も高野口地区公民館の協力をいただき、玄関前で開催させていただきました。公民館利用の方や、ご近所の皆様、保育園の子どもさんや本校の保護者、中学部の生徒も来場いただき、おかげさまで大盛況のイベントとなりました。天気にも恵まれ、生徒たちは準備から片付けまで、それぞれの役割をきちんと果たすことができました。「会計が手間取った」「お客様にきちんと挨拶できたかな？」など、反省は多々ありますが、今後に活かしていきたいと思います。

販売の後、すぐに売り上げの計算をしました。

- ①仕入れから残った分を引いて、売り上げの数に合っているか？
- ②売り上げ金額表の計算は間違っていないか？
- ③手元にある金額と売上金額は同じか？

を確認し、ご協力に関するお礼状と共に、封筒に間違いなく売上金を入れるところまで、担当生徒が教師のサポートを受けながら行いました。

封筒は紙工班の作ったものを使用しました。最後の作業まで集中して取り組み、間違いなく精算することができ、ホッとした表情の生徒たちでした。

★11月26日(金)高野ロマルシェ★ テントC(木工・家庭)

氏名	品名	個数	単価	売り上げ個数	売り上げ金額
オカザキ 紀芳庵	うまい棒 (たこやき)	30×2	10	正正正正正 19	190
	うまい棒 (チーズ)	30×2	10	正正正正正 22	220
	うまい棒 (コーンポタージュ)	30×2	10	正正正正 16	160
	おやつカルパス	50×2	10	正正正正正正正 正正正正正正正 5	530
	こんにやくゼリー	30×2	10	正正正正 20	200
	むぎっこチョコ (チョコ)	20×2	30	正正正正正 27	690
	むぎっこチョコ (いちご)	20×2	30	正正正 15	450
	ガブリチュー	20×2	30	正正正 15	450
	もっちゃんだんご	24×2	30	正正正 12	360
	シガレット (コーラ)	30×2	30	正正正正 13	390
	シガレット (ソーダ)	30×2	30	正正正正正 24	720
	カットよっちゃん	20×2	50	正 6	300
	タラタラしてんじゃ ねーよ	20×2	50	正正 10	500
	キャンディーボックス	15×2	50	正正正 15	750
ニューラムネ	24×2	50	正正正 12	600	
もちどら (テントDで販売)	10	300		3000	
	合計				1490



取り組みのまとめ

地域共育コミュニティ推進協議会とのつながり

- ・地域農家や住民への幅広い声かけにより、協力してくれる地域の方が増えた。
- ・販売に向けての準備のアドバイスをいただけたことで、販売に対する見方や考え方をひろげることができた。
- ・学校での作業学習で生徒とコーディネーターが直接交流をすることで、専門的な知識や方法を得ることができた。
- ・地域の実態を実際に聞くことにより、自分たちにできることは何かを考えるきっかけとなった。
- ・地域の方からの評価（あいさつや話を聞く態度が良好。準備や片付けが積極的にできる。オリジナル商品の改良に課題）を実際に聞くことができ、意欲の向上につながった。

地域への興味・関心のひろがり

- ・地域農家から提供いただいた農産物を預かることで、季節に収穫できる野菜や、地元の特産物を知ることができた。
- ・日頃目にする事の多い農作物は、一つ一つ手間をかけて大切に育てられていることに気づくことができた。
- ・生産量の多い果実も、加工品として地元で商品化されていることに関心を持つことができた。
- ・駄菓子提供をいただいた企業が身近に在り、そこで取り扱われている商品や製造過程について知り、地元の企業の仕事に触れることができた。

今後に向けて

高野ロマルシェを地域のイベントに定着

- ・2回開催のうち1回を学校での開催とし、地域農家、有志の他、作業所などの福祉とも連携して、つながりをひろげる。

関係者との交流の場を設定

- ・学校運営協議会のメンバーを核とした『高野ロマルシェ』に賛同いただける方々と、生徒たちが直接ミーティングを行う場を設定する。
- ・関係者の方々からアドバイスをいただき、外部の方からの声を実際に聞くことにより、ニーズの高い製品へと改良する意識を高める。

地域の取り組みを体験

- ・地域商店の特徴を知る機会を設ける。(見学・体験など)
※選果場や協力企業の見学、和菓子屋のまんじゅう作り、柿の葉寿司の作り方体験など

地場産業とのつながり

- ・パイル織物を使ったオリジナル作品作り